(二十八日夕刊)

休刊日　毎月第一、第三日曜
定價　一部二錢　一ケ月六十錢　郵税十五錢
廣告料　貴行六千餘　指定廿錢　特定廿錢增
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
福島五六四番
印刷人　藤沼龍輔

懸賞盆唄當選歌發表

平田町青年團

平町田町青年團で懸賞付石城盆唄を募集したが是に對し應募總數締切廿一日迄六百二十八句に對し廿五日午後六時より十一時まで田町一の井に審査員會合し第一回に百五十三句を選び更にその内より五十句を選定し一等より佳作迄等級を付したもので審査員當選唄左の如し

審査員　高久晩霞、荒井平碧長、伏見平町長、井上茂作、川崎小鳥、岡田弘成、島田忠夫、藤田青年團長、蓮沼龍輔、（荒井、蓮沼兩氏缺席す）

（順序不同）

當選歌

一等　背に花笠伊達にはつけぬ離れまいとの合印　平　白石　實
二等　ヤグラ太鼓の冴えたる音に月の兎も出て踊る　平　大原登良夫
同　寄るな〳〵の勿寄を越へて盆にや來て見よ平さで　平　鈴木　花柳
三等　踊り狂ふて夜明けを忘れ神谷からすに笑はれた　田村　松浦敏子
同　盆にや來て見よ磐城の平街は火の海人の波　平　萩生田みよ
同　緣の取りもちや赤井岳藥師行くにや御道が七曲り　平　多毛　尾
同　平名所は滑穂の上に九十九間の尼子橋　同　人
同　磐城豊間の岩打つ波は明日も大漁と知らす音　平　佐藤　佳男
四等　主と踊ろと尼子の橋に待てば出て來るた月樣　平　中島　常廣
同　稻にや穂が出る日和はつゞく磐城平はい祭り　平　山路　秋江
同　揃ろた〳〵よ足なみ手なみ月も踊るよい踊る　平　中　村屋
同　磐城平で見せたいものは櫻つゝじと盆踊り　平　綿引　富郎
同　しなのよい娘御にほしや氣立てやさしい踊り振り伊達　平　高橋　神尾不迷
同　はなれ〳〵に踊つたけれど對の浴衣で浮名立つ　平　高橋　みよ
同　西の赤井岳まだ日が暮れぬ町の踊りにやまだ早い　仲間町火防組員
同　一人留守居に寢は寢て見たがヤグラ太鼓が氣になる　平　多毛　尾
同　月は冴えたがわしや胸はれぬなせに踊り〳〵顔見せぬ　平　下　島　光
同　盆が來た〳〵あの山こへて可愛あの子も里歸り　平　長谷川つる
同　盆の三日は坊主の落度せめて七日もあればよい　平　高橋　清
同　鹽屋岬に燈臺あれど戀の闇路は照しやせぬ　平　本崎　司郎
佳作　盆の三晩を踊りで暮らす名さへ平の睦しや　助川　柏木哲
同　初生の乙女のたすきの色に咲いて名に出た岩躑躅　夏井　無姓太郎
同　御產輕いで乙姫樣も龍燈捧げる赤井岳　平　齋藤　桑子
同　磐城よいとこ住よい所海と山から金を產む　同　人
同　今宵一夜は踊りつ子の世界唄へ踊れよ夜明け迄　平　酒井　輝香
同　千部萬部の經文よりも唄で供養の盆踊り　平　鈴木　源一
同　木の香床しいヤグラの上で鐘と太鼓が更けて行く　平　山崎今之助
同　笛や太鼓で寢て眠られぬ浮かれ出カぞや盆の月　相馬　森相水
同　濱の眞砂ほど踊りつ子あるが人目引のは主ばかり　田村　參也
同　西は長橋東は鎌田中を流れる人の波　平　田村　次郎
同　赤井岳より七濱見れば青い海原眞帆片凧　平　鈴木　キク
同　一度來て見な磐城の平た國自慢の盆踊り　平　落合　富司
同　踊り下手でも腕節しや强よい肉が躍れば金が湧く　大津　市眞里川
同　しなのよい娘ときたら開けばわたしや田町よ花の里田村　松浦敏子
同　ねんま樣さへゆるすにやあか晴れて嬉しや盆踊り　平　にや　ち
同　鎌田山から月澄み昇る踊る姿の影に添ふ　平　根岸　老人
同　街は明るい噺すはつゞく踊るあの娘のしなのよさ　平　山路　秋江
同　わたしや磐城の平の生れ思ひ出します盆踊り　平　磯上　錦波
同　平城主は對馬守よ花のた江戸で御老中　平　多毛　尾
同　生木さかれた松明さへも盆の三日は火ともえる　平　鈴木　清兒
同　成るか成らぬか赤井岳詣り結ぶ其仲とりぬよに　平　伊藤眞砂常
同　踊り見に來りや平足が動く知らず〳〵に仲間入り　平　太田　銀雪
同　わたしが殿樣や馬守よ花を盛りを松ケ岡　平　萩生田みよ
同　磐城鄕ヤグラ太鼓はまよわす濱千鳥　平　澤村　秀吉
同　盆がまたれたらが祭り可愛あの娘と出て踊る平　本松　司郎
同　磐城平の名物踊りヤグラ太鼓一人の波　同　人
同　磐城平は石藏石城下名所樓の松ケ岡　同　人

▲一白の人　思はざる突發事件のために敗るゝこゝあり▲二白の人　何事も至誠を以てすれば可ならざるなし▲三碧の人　困苦も只辛抱次第にて切りぬけることを得▲四綠の人　刻苦の甲斐空しからず意外の援助をうべし▲五黃の人　心をたかい樣と同じやうに立派にして叶はせる、就てはお年住みなれたとは云へ犬小屋同樣の此の家、愈々見棄てることになつたが、親子木造にして、柱數が百三十六本、垂木の數が六萬本、何にしても廣大なものでございます。

空山雲上寺とでございます屋根瓦の高さ十丈二重

▲明日……六月七日
▲吉……舊月朔日
▲凶……暦四　暦九　日

白馬の雪
芳醇無比
松本德一吟釀
平電話七五二

赤鞘安兵衛

講談

東京　桃川燕二演
村田月光書

（九）

安太郎の思策は深くなつた——「あゝわれ等の樣な在つて益なき身體一日も早く死んで安之助をた父上のいたやば塞げは又と有まい許へやらねばならぬ、ア、ことで、其方には事をかき然うぢや」茲で安太郎は死ませぬ病は氣からで段々全中臣の勝見等のため灘波堀ぬ覺悟を極めて終つた、翌快に近付く日に薄紙を剝か朝に相成つて——「伴や」——「ハイ」——昨晩もいろ〳〵と考へた、世にあれば一程に相成りました——槍一節のあるじ、不心得の扱て伴、其方の丹誠によつ為め斯く浪々の身と相成つて父は斯くばかり壯建の身たが、何うあつても其方は亡なつた」——「誠にた目出入並にして道はさねばならたう存じます」——「就ては拙當の詫をして、新發田へ御勸當の戻らうと思ふ」——「新發田へ御勸當の戻ることが出來ますれば宜しうございます」——「永方に暮る、新發田へ同道して菩提所で瞑腹至して御勸當のわびをする、た言葉もあつた上のことだから、然の身體ながら、醫者にも懸ぬ身體なら、斯う思つたから死を作り上げたものだと云よ薬を充分飲んで手當てを尾與中臣の鎌子のため水火の難に罹り、敏達天皇の御許へ立越し、ことで、其方には事をかき然うぢや」茲で安太郎は死ませぬ病は氣からで段々全中臣の勝見等のため灘波堀ぬ覺悟を極めて終つた、翌快に近付く日に薄紙を剝か朝に相成つて——「伴や」——「ハイ」——昨晩もいろ〳〵と考へた、世にあれば一程に相成りました——槍一節のあるじ、不心得の扱て伴、其方の丹誠によつ為め斯く浪々の身と相成つて父は斯くばかり壯建の身たが、何うあつても其方は亡なつた」——「誠にた目出入並にして道はさねばならたう存じます」——「就ては拙當の詫をして、新發田へ御勸當の戻らうと思ふ」——「新發田へ御勸當の戻ることが出來ますれば宜しうございます」——「永

八分に配り進むこと序あれば無事たり▲六白の人　企て事は皆な一時になる吉日たり欲食注意▲七赤の人　自由自在に活動やらるゝ無二の最良日たり▲八白の人　進むにも丁心して急ならざるやうにすべし▲九紫の人　奮勵すれば第一の栄冠を授けらるべき吉日

迦尼牟佛が閻浮檀金を龍宮にもとめ如來の光明と釋迦の光明とを合せて此の閻浮檀金をとかし失れでこの像尾與中臣の鎌子のため水火の難に罹り、敏達天皇の御許へ立越し、ことで、其方には事をかき字に至つて再び物部の守屋千部萬部の經文よりも唄で供養の盆踊り鈴木　源一木の香床しいヤグラの上で鐘と太鼓が更けて行く山崎今之助笛や太鼓で寢て眠られぬ浮かれ出カぞや盆の月　相馬　森相水濱の眞砂ほど踊りつ子あるが人目引のは主ばかり田村　參也西は長橋東は鎌田中を流れる人の波　平　田村　次郎赤井岳より七濱見れば青い海原眞帆片凧　平　鈴木　キク一度來て見な磐城の平た國自慢の盆踊り　平　落合　富司踊り下手でも腕節しや强よい肉が躍れば金が湧く　大津　市眞里川しなのよい娘ときたら開けばわたしや田町よ花の里田村　松浦敏子ねんま樣さへゆるすにやあか晴れて嬉しや盆踊り　平　にや　ち鎌田山から月澄み昇る踊る姿の影に添ふ　平　根岸　老人街は明るい噺すはつゞく踊るあの娘のしなのよさ　平　山路　秋江わたしや磐城の平の生れ思ひ出します盆踊り　平　磯上　錦波平城主は對馬守よ花のた江戸で御老中　平　多毛　尾生木さかれた松明さへも盆の三日は火ともえる　平　鈴木　清兒成るか成らぬか赤井岳詣り結ぶ其仲とりぬよに　平　伊藤眞砂常踊り見に來りや平足が動く知らず〳〵に仲間入り　平　太田　銀雪わたしが殿樣や馬守よ花を盛りを松ケ岡　平　萩生田みよ磐城鄕ヤグラ太鼓はまよわす濱千鳥　平　澤村　秀吉盆がまたれたらが祭り可愛あの娘と出て踊る平　本松　司郎磐城平の名物踊りヤグラ太鼓一人の波　同　人磐城平は石藏石城下名所樓の松ケ岡　同　人

貸切は
（料金低廉な）
磐城タクシーへ
電話四五四番
平驛前

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（福際）
木村外科醫院
電話三〇九

平町田町
高久病院
電話五一三番

磐城刀劍保存會生る
我國三千年來大和魂の眞髓武士道の精華である刀劍は其影を消さんとする傾嚮あり邦家の爲め慨歎に堪へざるため石城の愛刀家加藤丈夫、酒井國三郎、長谷川豐吉其他同好者相謀り茲に磐城刀劍保存會といふ研究と保存を目的とした團體を組織する事になつた奮つて御入會下さい。
▲入會申込所　平町字二丁目　長谷川精子店方
記
八月三日　於住吉屋本店　磐城刀劍保存會組織準備會當日役員決定
當日は夫々刀劍持寄批評研究をなす
九月　平町住吉屋本店に於て
當日は東部刀劍の大家本阿彌光遜氏來平講演
發起人一同

內臟外科
外科一般
花柳病科
入院隨意　目炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡
安齋外科醫院
電話四三六番

銘酒　清世界
各炭鑛御用達
石城小名濱港
清水屋
小野晋平
電話六番

婦人病には美神丸を
確信を以て
お奬め致します
白熱的歡迎は品質の優良と藥効の偉大なるを立證す
美神丸の主治効能
白帶下　子宮內膜炎　子宮痲痺（消渴）子宮出血　子宮痒痒　子宮糜爛　月經不順　陰門惡臭　子宮下り及ゆがみ　肉腫痲毒に起因する不姙症等不感症（餘よきを知らぬ病）
一日藥價僅か五錢の
自宅療法
救世の婦人藥　美神丸は　安價、簡便、卓効、秘密の四つ揃つた理想藥です
定價表　一週分　四〇　二週分　八〇　五週分　一、八〇　十週分　三、五〇
（一）責任二大藥（美神淋藥）
試藥　七〇
定價　一週分　四、五〇　二週分　八、〇〇
他藥にて全治せぬ人々にのみ勸む
靈効實に平凡藥との比に非ず
（二）宮內家家秘法秘藥の（毒退治）
定價　試用分　一、〇〇　一週分　二、〇〇　二週分　三、五〇　三週分　五、〇〇
主治効能
黴毒、痲毒、下疳、瘡毒、胎毒、遺傳毒、等特異の効果を有す……一度は是非試みられよ
平町五丁目角
地方代理店　山野邊藥局
一町一村に一特約店を募集す
速刻希望者は申込あれ

宮內省御用達
ヒゲタ醬油
醬油　飲料醬油株式會社
平町田町
特約店　廣瀨支店
電話五四番

石城郡下産業組合 出資八十四萬圓

内容益々充實して 將來を刮目さる

石城郡下に於ける七月一日現在の産業組合數を見ると全部で二十七組合の出資總額は八十三萬八百五十五圓に達してゐるが、これを昨年の同期に比すると二組だけ減じてゐるしかし内容につけたのを經費の關係からは流産しては大變だと更に一金は十九萬三千五百圓を擁して十七萬一千七百圓の巨額に及んでゐる組合中最も成績のよいのは江名信用組合で出資十二萬七千五百圓貯金十一萬六千圓に對して借入は三萬九千圓だけである

鮫川疏水の 工事促進運動

石城郡鮫川疏水の復活改修工事は小柳知事が大英斷をもつて決行することになり縣耕地課で設計書を作成中二十六日縣技師と荒水疏水同村を配達中約三十通ほどの郵便物（主に雑誌、爲替類）を紛失したので平署に届け出たが、同署では或ひは同人が酷暑の爲に配達を一般から非常な賞讃を博しているが尚同坑には目下勞働者一千三百名役員六十名を有してゐる

町村事務 講習 平と植田で

石城郡下各町村役場吏員の事務指導講習會は左記日割により縣より係官出張開催する

八月八、九日植田小學校
十、十一日平町舊商業學校

三井炭礦出水 益々甚だし

本社から係員來山調査 遂へに休山か

石城郡磐崎村三井炭礦坑内新村技師來山質地調査をなした水は既報の如くなるが其の後二十八日に至り減水傾向を示してゐるので全く採炭は不能に陥り坑内の諸機械設備等を全部取拂ひに着手（九日本社から係員來山調査に就き同坑々内係員が機敏平署に照會して來たので同坑々内係員が機敏平署に照會して來たので平町地方の不景氣は周圍の各炭礦や農村等の不振より殊に甚だしく特に庶民階級の困窮は一層悲慘なる狀態にあるが之等の唯一の金融機關たる質屋の最近の狀況を見るに質草は貴金屬類は野寺健太郎氏外ライオン口腔衛生部長向井喜男氏に一部選手一同は午後四時着で歸平した

四倉海水浴場の人出一万餘

四倉海水浴場の二十日の丑の日の人出は四倉署の調べに依ると一萬三千餘人に一去十一日平町舊商業學校で雜沓々呈した

質草に依り 平町の 世相か解る 悲慘の極み

入山礦の少年が 父を探してと 平署で取調中

千葉縣市川署に願出

去る二十五日夜千葉縣市川署へ父を探して下さいと願ひ出た年齢十三、四歳位の少年があり、係り官が調べると同人は石城郡湯本町川又由衛長男慶太（三）と判明父は同地の炭坑々夫をしてをり母は本年三月死去したが、その跡へ年若い繼母が入り込んで、家庭が面白くなく、二十四日夜父が「遊びに行かう」と慶太を連れ出し汽車で二十五日夜市川驛に下車した處「煙草を買つて來い」と言ひ付けられて、煙草屋に行つた隙に父は姿を晦ましたのだと涙ながらに語つたので

同署では父が若い繼母と共謀して遠隔地に捨て子に來たものと睨み二十六日所轄平署に照會して來たので同署では目下調査中である

平局の 郵便物紛失 目下取調中

平局の平窪村地方配達夫高羽政夫（二九）假名が二十五日同村を配達中約三十通ほどの郵便物（主に雑誌、爲替類）を紛失したので平署に届け出たが、同署では或ひは同人が酷暑の爲に配達を一般から非常な賞讃を博しいやになつてよくあるところの郵便物遺棄を企てたのではないかと二十六日午後から本人を呼び出し取調べた右について平局某主事は語る

本人が粉失したと申立てゐるので目下局員を派し取調べ中だが同人の平素から見ても遺棄などしたものとは思はれません然し責任は明らかにします云々

海水浴に依る 健康增進法

注意を怠ると 却つて害を招く

近年からゆる學校において夏になると水泳を奬勵し又家庭的にも男子ばかりでなく婦女子に至るまで盛んに行はれるやうになつたのであるが、然し一寸した不注意から病氣をしたり或ひは怪我をしたり往々生命さへも失ふ場合が少くないのであるから、その點は充分注意すべきは勿論であるが、更に誰でも經驗するやうに太陽の强く當る所で水泳すると、二三日すれば全身が真赤に燒けてヒリ〳〵となり甚だしくなると少し腫る場合もある、これは即ち日光の强い直射によつて起る火傷でこれを第一度の火傷と名付ける、この症狀が更に進んで痛みが激しくなりそして水腫が生ずるやうになると第二度の火傷となる斯やうに火傷が進んで行くと遂に泳げなくなり、折角の水泳も中途にして止めねばならぬ狀態となる、然らば如何にすればよいか、先づ最初から餘り長く水泳をしてはならぬ樣に注意し出來るだけ日光の直射を避ける樣にする必要が有、水泳後は真水にて身體を拭き日蔭で休息するやうにしなければならない、火傷が甚だしい場合に入浴するとかへつて痛みが激しくなり、水腫もひどくなつて遂にはその水腫が化膿する事もある、そこに徐々に鍛錬してゆかねばならぬ、時稀に海水泳などで或程度の火傷の人は水泳ならぬ後冷水で輕く身體を拭き、そして火傷の痛みの激しい場合には最初から長時間泳がないやうにし徐々に鍛錬してゆかねばならぬ、時稀に海水泳などに出かけ一日に多くの効果を得やうとして長く泳いでは逆に泳げなくなり、折角の水泳も中途にして止めねばならぬ狀態となる、然らば如何にすればよいか、先づ最初から餘り長く水泳をしてはならぬ樣に注意し出來るだけ日光の直射を避ける樣にする必要が有、水泳後は真水にて身體を拭き日蔭で休息するやうにしなければならない、火傷が甚だしい場合に入浴するとかへつて痛みが激しくなり、水腫もひどくなつて遂にはその水腫が化膿する事もある、そこに徐々に鍛錬してゆかねばならぬ、時稀に海水泳などで或程度の火傷の人は水泳ならぬ後冷水で輕く身體を拭き、そして火傷の痛みの激しい場合には最初から長時間泳がないやうにし